

電子情報通信学会ワードテンプレート (タイトル) —HCG シンポジウム形式 (サブタイトル)—

電子 花子[†] 情報 太郎[‡] 通信 次郎[‡]

[†] 第一大学工学部 〒105-0123 東京都港区山田 1-2-3

[‡] 大阪株式会社開発部 〒565-0456 大阪府吹田市河田 4-5-6

E-mail: [†] hanako@denshi.ac.jp, [‡] {taro, jiro}@jouhou.co.jp

あらまし Microsoft Word による電子情報通信学会 HCG シンポジウム形式のテンプレートファイルです。
キーワード Windows, Word, テンプレート

IEICE Word Template (Title)

— The Format of HCG Symposium (Subtitle) —

Hanako DENSHI[†] Taro JOUHO[‡] and Jiro TSUSHIN[‡]

[†] Faculty of Engineering, First University 1-2-3 Yamada, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan

[‡] R&D Division, Osaka Corporation 4-5-6 Kawada, Suita-shi, Osaka, 565-0456 Japan

E-mail: [†] hanako@denshi.ac.jp, [‡] {taro, jiro}@jouhou.co.jp

Abstract IEICE (The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers) provides a word template file for the HCG Symposium of IEICE.

Keyword Windows, Word, Template

1. 原稿用紙

1.1. タイトルその他(1 ページ目上部)に関して

1 ページ目上部には、タイトル、発表者氏名、所属、住所、メールアドレス、キーワードの和文と英文及びあらまし(和文 300 字程度、英文 100 語程度)を、それぞれ記述して下さい。

[特別招待講演]と指示されている方は[特別招待論文]、[特別講演]の方は[特別講演]、[招待講演]の方は[招待論文]、[基調講演]の方は[基調講演]とタイトルの前にお入れ下さい。

1.2. 本文に関して

本文は、本テンプレートファイルを用いて記述して下さい。

2. 原稿提出枚数

図・表、写真を含め制限枚数以内で作成して下さい。原稿を作成する前に、手持ちの原稿量と制限枚数とを十分勘定して制限枚数におさまるようご注意ください。

3. 原稿の書き方

文字の大きさについては、本文は 9 ポイントを標準とし、字間および行間は適宜調整して下さい。また、標題は拡大文字として下さい(本ファイル参照)。

図面、写真、表の文字や数字は原則本文と同じ大きさとして下さい。

4. 著作権について

電子情報通信学会著作権規程：

<http://www.ieice.org/jpn/about/kitei/18chosakukenkitei.html>参照。

本会(電子情報通信学会)の編集著作物及び個別の著作物の著作権は、原則として本会に帰属することとなっております。詳細は著作権規定を参照下さい。

電子投稿される前にチェックをして頂きますようお願いいたします。

5. 発行日について

特許権、著作権保護のため発表日(開催日初日)の1週間前(7日前)を発行日(公知日)としておりますのでご注意ください!

特許権につきましては、発行日から 6 ヶ月間は権利を主張できますが、投稿する方は投稿論文の特許、その他の権利を早めに申請する等、権利保護に充分注意して下さい。

文 献

- [1] (雑誌の場合) 著者名, “標題,” 雑誌名, 卷, 号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月(英語)年.
- [2] (雑誌例 1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論(B), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan.1979.
- [3] (雑誌例 2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, diffusion of impurities during epitaxy, Proc. IEEE, vol.52, no.3, pp.284-290, March 1964.
- [4] (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [5] (著書, 編書例 1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [6] (著書, 編書例 2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- [7] (著書の一部を引用する場合) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号または pp.を付けて始め-終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [8] (著書の一部引用例 1) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 1989.
- [9] (著書の一部引用例 2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin.
- [10] (国際会議の場合) 著者名, “表題,” 会議名, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 都市名, 国名, 月(英語)年.
- [11] (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no.MoF4.6, pp.3-13, Amsterdam, The Netherlands, Sept.1990.
- [12] (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 分冊または号, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月(英語)年.
- [13] (国内大会, 研究会論文集例) 川上三郎, 川口四郎, “紫外域半導体レーザ,” 1995 信学全大, 分冊 2, no.SB2-1, pp.20-21, Sept.1995.